

万葉集における「一字で二語にわたる万葉仮名」(資料篇)

北島

徹

Summary

“Manyo Character” : Two Words By One Character

Toru Kitajima

There are many cases where two words are represented by one character in *Manyo Shu*. This is according to the writing style which overlooks the separation of words. By looking into how such words were used, in the days of Manyo era, we can discover the theory and convention behind the usage of words.

I have tried to collect such words and classify them in order to help to open up further study.

「一字で二語にわたる万葉仮名」について

万葉仮名の中には一字で二語を表すものがある。例えば巻一「山^{とほ}常庭(大和には)」の「庭」は助詞「に」と「は」とを表している。こういったものがここでとりあげるものである。しかし今の例は一音節語と一音節語の二語を表しているので、「二語を一字で表す万葉仮名」と言ってもよいことになるが、今回あつかうのは、こういったものばかりではない。例えば巻一「六懸而小竹櫃(かけて偲ひつ)」の「櫃」^{ひつ}、巻二「二三隠西加婆(隠りにしかは)」の「西」^に、巻十一「二七五〇馬下乃(旨し物)」の「下」^も等、ある語の語尾一音節と一音節語、一音節語とある語の語頭一音節、ある語の語尾一音節とある語の語頭一音節などを表すものなどである。こういったものも含めたので、「一字で二語にわたる万葉仮名」と呼ぶことにしたのである。

一、分類方法および基準

- (一) 万葉仮名一文字で示される二語それぞれに注目して分類を行う。
- (二) 二語のうち第一語については、まず活用するものと、活用しないものとに大別した。さらにそれが自立語か付属語かによって分類することにした。資料篇では次のように示す。
- 第一語が活用する自立語の場合
- ◎ 第一語が活用する付属語の場合

- ◎ 第一語が活用しない自立語の場合
- ◎ 第一語が活用しない付属語の場合

(三) 第二語については特に活用するかしないかの別は見ないことにしたが、自立語か付属語かは区別することにした。資料篇では次のように示す。

- (イ) 第二語が自立語であるもの
- (ロ) 第二語が付属語であるもの

(四) さらに第一語、第二語双方について、一文字で表わされているものがそれぞれ一音節語であるのか、単語の語尾(第一語)あるいは語頭(第二語)であるのかがわかるように分類した。資料篇では次のように示す。

- (a) 一音節語＋一音節語
- (b) 一音節語＋語頭
- (c) 語尾＋一音節語
- (d) 語尾＋語頭
- (e) その他

(五) なお、第一語が自立語である場合、その品詞によって分類し、また第一語が活用する語である場合は活用形によって分類することにした。

(六) 用例には、問題とする万葉仮名の所在を、短歌・旋頭歌は第何句、長歌は五音句・七音句・結句という形で示し、さらに句中の第何音節目と第何音節目にあたるかを算用数字によって〇〇の形で示していた。

(七) 集中多く見られる助詞「かも」を「鴨」と表記したものは除外することにした。今は「かも」を一語の助詞と考えておく。

二、資料 篇

○第一語が活用する自立語の場合

(イ)第二語が自立語であるもの

該当例なし

(ロ)第二語が付属語であるもの

(a)一音節語＋一音節語

動詞・未然形＋付属語

今^こ乱^{みだ}今^こ可^{みだ}聞^{きこ} (乱れ来むかも12二九二七、短歌第五句4ゝ5)

金^こ今^こ還^{いまかへ}金^こ (今帰り来む13三三三二、短歌第五句6ゝ7)

米^こ名^な積^{せき}米^こ八^{はち}方^{ほう} (なづみ来めやも10一八二三、短歌第五句4ゝ5)

責^せ妹^せ平^{へい}奈^な何^な責^せ (妹をいかにせむ4六三三、短歌第五句7ゝ8) 和

備^ひ染^{せん}責^せ跡^{あと} (わびしめせむと4六四一、短歌第二句5ゝ6) 片念男

責^せ (片思ひをせむ4七一九、短歌第五句6ゝ7) 吾惜責^わ (我が惜

しみせめ7一四一四、短歌第五句6ゝ7)

念^{ねん}獨^{どく}鴨^も念^{ねん} (ひとりかも寝む4七三五、短歌第五句6ゝ7)

形容詞ク語法

哭^{なぐ}君^{きみ}伊^い之^の哭^{なぐ}者^{もの} (君いしなくは4五三七、短歌第四句5ゝ6)

(b)一音節語＋語頭

該当例なし

(c)語尾＋一音節語

動詞・未然形＋付属語

甘^{かん}僧^{そう}半^{はん}甘^{かん} (僧は泣かむ16三八四六、短歌第五句6ゝ7) 汝毛半甘

(汝も泣かむ16三八四七、短歌第五句6ゝ7)

敢^{かん}可^か久^く夜^や嘆^{たん}敢^{かん} (かくや嘆かむ5九〇一、短歌第四句6ゝ7)

龜^{かめ}吾^{われ}社^{しゃ}湯^{たう}龜^{かめ} (我こそ行かめ12二九三一、短歌第五句6ゝ7)

核^{かく}草^{くさ}平^{へい}核^{かく} (草を刈らさね1一、短歌第五句6ゝ7) 花平責核^は (花

を責かさね10二二九二、短歌第四句6ゝ7) 無恙行核^さ (幸くいま

さね12三三〇四、短歌第二句6ゝ7)

寒^{さむ}於^お毛^も保^ほ寒^{さむ} (思はさむかも4六五四、短歌第五句4ゝ5) 神祇毛

知^ち寒^{さむ} (神も知らさむ4六五五、短歌第四句6ゝ7) 手折可佐寒^た (手

折りかささむ10二二八八、短歌第五句6ゝ7)

三^{さん}神^{かみ}思^し知^し三^{さん} (神し知らさむ4五六一、短歌第五句6ゝ7) 如是二一

知^ち三^{さん} (かくし知らさむ6九〇七、長歌七音句6ゝ7) 恋八九良三

(恋ひや暮らさむ10一九二五、短歌第五句6ゝ7)

南^{なな}指^{さし}南^{なな}与^よ我^{われ}兄^{あに} (死なむよ我が背12二九三六、短歌第二句2ゝ3)

二^{ふた}火^ひ四^よ吾^{われ}妹^{いもうと} (死なむよ我妹13三二九八、短歌第二句2ゝ3)

食^く見^み乍^さ思^し食^く (見つつ思はむ7一〇六、短歌第五句6ゝ7) 吾将竊

食^く (我がぬすまはむ11二五七三、短歌第五句6ゝ7)

生^は家^{いへ}之^の小^{せう}篠^{しほ}生^は (家し思はゆ6九四〇、短歌第五句6ゝ7)

動詞・連用形＋

櫃^ひ懸^か而^し小^{せう}竹^{しよく}櫃^ひ (かけて思ひつ1六、短歌第五句6ゝ7) 懸而之努櫃

(かけて思ひつ3三六六、長歌七音句6ゝ7) 日本思櫃^{やまとしの} (大和思

ひつ3三六七、短歌第五句6ゝ7)

早受^そ早宿^そ跡^{あと}(うけひて寝れど11二五八九、短歌第五句3ゝ4) 五十

羽^は早^そ將^{しょう}待^{たい}(斎^{いは}ひて待たむ13三二九、短歌第五句3ゝ4)

動詞・終止形+付属語

雲^{くも}鷺^{さぎ}名^な雲^{くも}(うぐひす鳴くも10一八二五、短歌第五句6ゝ7)

形容詞・未然形+付属語

兼^け船^{ふね}之^の早^{はや}兼^け(舟の速けむ9一七八四、短歌第五句6ゝ7) 散^{さん}惜^{しつ}兼^け(散

らば惜しけむ10二二一六、短歌第四句6ゝ7) 市^{いち}白^{はく}兼^け名^な(いちしろけ

ろけむな10二三三四、短歌第四句5ゝ6) 市^{いち}白^{はく}兼^け名^な(いちしろけ

むな11二六八〇、短歌第四句5ゝ6) 数^{かず}知^ち兼^け(あまた著けむ12二

九四八、短歌第五句6ゝ7)

裏^{うら}恋^{こひ}監^{けん}(うち恋しけむ12三三〇三、短歌第四句6ゝ7)

藍^{あい}見^み欲^ほ賀^が藍^{あい}(見が欲しからむ6九一〇、短歌第二句6ゝ7)

形容詞・連用形+付属語

雲^{くも}久^{ひさ}雲^{くも}在^あ(久しくもあらむ10一九〇一、短歌第五句4ゝ5) 時^{とき}友^{とも}無^な

雲^{くも}(時ともなくも11二七〇四、短歌第四句6ゝ7) 長^{なが}雲^{くも}鴨^鴨(長く

もがも13三三四五、長歌七音句3ゝ4) 惜^{おし}雲^{くも}不^ふ有^有(惜しくもあら

ず16三八一三、短歌第二句3ゝ4)

形容詞・終止形+

霜^{しも}死^し落^お日^ひ莫^な死^し(おつる日なしに11二六七六、短歌第五句6ゝ7)

見^み者^{もの}悲^{かな}霜^{しも}(見れば悲しも3四三四或云、短歌第四句6ゝ7) 肌^肌

之^の寒^{さむ}霜^{しも}(肌寒しも4五二四、短歌第五句6ゝ7) 繼^{つぎ}之^の宜^{よろ}霜^{しも}(繼

ぎの宜しも7一〇九三、短歌第五句6ゝ7) 見^み者^{もの}淨^{きよ}霜^{しも}(見れば清

しも7一一五八、短歌第五句6ゝ7)

下^{しも}見^み佐^さ府^ふ下^{しも}(見ればさぶしも9一七九八、短歌第五句6ゝ7)

形容詞・ミ語法

染^し益^{えき}目^め煩^{わづ}染^し(いやめづらしみ2一九六、長歌七音句6ゝ7) 和^わ備^び染^し

責^{せき}跡^{あと}(わびしめせむと4六四二、短歌第二句3ゝ4) 五^ご百^{ひゃく}入^い鈍^{どん}染^し

(いほり悲しき7一二三八、短歌第五句6ゝ7) 山^{やま}名^な付^{つけ}染^し(山な

つかしみ7一三三三、短歌第四句6ゝ7) 云^い者^{もの}忌^い染^し(言はばゆゆ

しみ10二二七五、短歌第二句6ゝ7) 見^み者^{もの}恋^{こひ}染^し(見れば恋しみ13

三三二四、短歌第二句6ゝ7)

(d) 語尾+語頭

形容詞+

下^{しも}馬^う下^{しも}乃^な(うましもの11二七五〇、短歌第三句3ゝ4)

◎第一語が活用する付属語の場合

(イ) 第二語が自立語であるもの

該当例なし

(ロ) 第二語が付属語であるもの

(a) 一音節語+一音節語

助動詞・未然形+付属語

點^{てん}著^{しやく}點^{てん}等^{どう}鴨^鴨(着せてむとかも7二七二、旋頭歌第五句3ゝ4) 人^{ひと}

見^み點^{てん}鴨^鴨(人見てむかも11二三五三、旋頭歌第六句4ゝ5)

道^{みち}之^の白^{しろ}鳴^{なり}(道の知らなく2一五八、短歌第五句6ゝ7)

南^{なん}去^き別^{べつ}南^{なん}(行き別れなむ2一五五、長歌結句6ゝ7) 恋^{こひ}渡^{わた}南^{なん}(恋ひ

渡りなむ6九七、短歌第五句6ゝ7) 年者也経南(年はや経な

む7一四〇〇、短歌第四句6ゝ7) 散香過南(散りか過ぎなむ8

一六五一、短歌第五句6ゝ7) 今日香過南(今日か過ぎなむ9一

六七四、短歌第五句6ゝ7) 今夜者寐南(今夜は寝なむ9一七二

八、短歌第二句6ゝ7) 吾者来南登(我は来なむと9一七四〇、

長歌七音句5ゝ6) 吹南時尔(吹きなむ時に10二二〇九、短歌第

四句3ゝ4) 奈積而有南(なづみてありなむ10二二二二、短歌第

五句7ゝ8) 黄始南(もみちそめなむ10二二九五、短歌第五句6

ゝ7) 吾者恋南(我は恋ひなむ11二五四八、短歌第二句6ゝ7)

面忘南(面忘れなむ11二五九一、短歌第五句6ゝ7) 聞渡南(聞

き渡りなむ11二六五八、短歌第五句6ゝ7) 吾恋南雄(我は恋ひ

なむを11二七六七、短歌第四句5ゝ6) 乱哉為南(乱れやしなむ

11二七九一、短歌第四句6ゝ7) 妹平待南(妹を待ちなむ11二八

二〇、短歌第二句6ゝ7) 恋渡南(恋ひ渡りなむ12二九七四、短

歌第五句6ゝ7) 恋渡南(恋ひ渡りなむ12三〇七二、短歌第五句

6ゝ7) 益々南(いや増さりなむ12三三三五、短歌第五句6ゝ7)

明日別南(明日別れなむ12三三〇七、短歌第五句6ゝ7)

酒二染嘗(酒に染みなむ3三四三、短歌第五句6ゝ7) 吾波乞嘗

(我は恋ひなむ3三八〇、短歌第四句6ゝ7) 不視歎成嘗(見ず

かなりなむ9一七二二、短歌第四句6ゝ7)

落卷者後(降らまきは後2一〇三、短歌第五句3ゝ4) 荒卷惜毛

(荒れまく惜しも2一六八、短歌第五句3ゝ4) 寒有卷尔(寒く

らまくに2二〇三、短歌第五句5ゝ6) 見卷苦流思母(見まく苦

しも2二二九、短歌第五句2ゝ3) 懸卷欲寸(かけまく欲しき3

二八五、短歌第二句3ゝ4) 干卷惜裳(枯れまく惜しも3四三三、

短歌第五句3ゝ4) 挂卷母(かけまくも3四七五、長歌五音句3

ゝ4) 言卷毛(言はまくも3四七五、長歌五音句3ゝ4) 挂卷

毛(かけまくも3四七八、長歌五音句3ゝ4) 吾恋卷者(我が恋

ひまくは4五五一、短歌第五句5ゝ6) 歎見卷(ねもころ見まく

4五八〇、短歌第四句6ゝ7) 見卷毛不知(見まくも知らず4五

八一、短歌第二句2ゝ3) 見卷之欲寸(見まくの欲しき4五八四、

短歌第四句2ゝ3) 見卷欲跡(見まく欲しけど6九四六、長歌七

音句2ゝ3) 決卷毛(かけまくも6九四八、長歌五音句3ゝ4)

言卷毛(言はまくも6九四八、長歌五音句3ゝ4) 明日左倍見

卷(明日さへ見まく6一〇一四、短歌第四句6ゝ7) 繫卷裳(か

けまくも6一〇二二、長歌五音句3ゝ4) 見卷欲為(見まく欲り

する6一〇六二、長歌七音句2ゝ3) 過匿卷(過ぎ隠らまく7一

〇六九、短歌第四句6ゝ7) 人之刈卷(人の刈らまく7一三四一、

短歌第四句6ゝ7) 零卷惜美(散らまく惜しみ8一五〇二、短歌

第五句3ゝ4) 落卷惜見(散らまく惜しみ8一五八六、短歌第二

句3ゝ4) 落卷惜毛(散らまく惜しも8一五九四、短歌第五句3

ゝ4) 零卷平将見(降らまくを見む8一六四三、短歌第五句3ゝ

4) 開卷惜(明けまく惜しき9一六九三、短歌第二句3ゝ4)

入卷悽毛(入らまく惜しも9一七二二、短歌第五句3ゝ4) 問卷

乃(問はまくの9一七四二、長歌五音句3ゝ4) 明卷舊視(明け

まく惜しみ9一七六一、長歌七音句3ゝ4) 守卷欲寸(守らまく

欲しき10一八五八、短歌第四句3ゝ4) 散卷惜衰(散らまく惜しも10一八七〇、短歌第五句3ゝ4) 散卷惜(散らまく惜しき10一八七一、短歌第二句3ゝ4) 見卷之欲(見まくの欲しき10一九一三、短歌第四句2ゝ3) 散卷惜(散らまく惜しき10一九四四、短歌第二句3ゝ4) 散卷惜(散らまく惜しき10一九五七、短歌第二句3ゝ4) 落卷惜毛(散らまく惜しも10一九七〇、短歌第四句3ゝ4) 置卷惜(置かまく惜しき10二〇九九、短歌第二句3ゝ4) 落卷惜三(散らまく惜しき10二二〇八、短歌第四句3ゝ4) 散卷惜(散らまく惜しも10二二一五、短歌第五句3ゝ4) 散卷惜衰(散らまく惜しも10二二二一、短歌第五句3ゝ4) 落卷惜見(散らまく惜しき10二二五五、短歌第四句3ゝ4) 落卷毛将見(散らまく見む10二二七二、短歌第五句3ゝ4) 落卷惜(散らまく惜しも10二二七八、短歌第五句3ゝ4) 落卷惜衰(散らまく惜しも10二二二五、短歌第五句3ゝ4) 繼而見卷能(繼ぎて見まくの11二五五四、短歌第四句5ゝ6) 見卷欲毛(見まくだしきも11二五五九、短歌第五句2ゝ3) 見卷欲家口(見まくだしけく11二六六六、短歌第二句2ゝ3) 死卷耳其(死なまくのみそ11二七八九、短歌第四句3ゝ4) 君尔相卷者(君に逢はまかは11二七九四、短歌第五句6ゝ7) 見卷欲乎(見まくだしきを11二八〇一、短歌第四句2ゝ3) 恋卷裳太口(恋ひまくだしく11二八一〇、短歌第五句3ゝ4) 懸卷欲(かけまくだしき12二九一五、短歌第四句3ゝ4) 解卷惜毛(解かまく惜しも12二九五二、短歌第五句3ゝ4) 続手見卷之(繼ぎて見まくの12二九九二、短歌第四句5ゝ6)

見卷欲江之(見まくほり江の12三〇二四、短歌第二句2ゝ3) 妹見西卷(妹に見せまく13三三三三、短歌第四句6ゝ7) 挂卷毛(かけまくも13三三三四、長歌五音句3ゝ4) 荒卷惜毛(荒れまく惜しも13三三三一、長歌結句3ゝ4)

幕 恋幕思者(恋ひまく思へば7一二二七、短歌第五句3ゝ4) 見幕下吉(見まくしも良し10二二〇〇、短歌第五句2ゝ3) 見幕礼(見まくだりすれ11二五九二、短歌第五句2ゝ3)

莫 散莫惜毛(散らまく惜しも8一五一七、短歌第五句3ゝ4) 散莫惜衰(散らまく惜しも10二二八七、短歌第五句3ゝ4) 過莫呼(過ぎまくを13三三三九、長歌五音句3ゝ4)

纏 挂纏毛(かけまくも13三三三四、長歌五音句3ゝ4) 助動詞・連用形・付属語

西 立西日從(立ちにし日より3四四三、長歌七音句3ゝ4) 絶西緒(絶えにし紐を4五一五、短歌第二句3ゝ4) 縁西鬼尾(寄りしものを4五四七、短歌第五句3ゝ4) 和備西物尾(わびにしものを4七五〇、短歌第二句3ゝ4) 待西将待(待ちにし待たむ6一〇四一、短歌第五句3ゝ4) 深染西(深く染みにし6一〇四四、短歌第二句6ゝ7) 名付西(なつきにし6一〇四九、短歌第一句4ゝ5) 沾西衣(濡れにし衣7一一八六、短歌第四句3ゝ4)

乘西意(乗りにし心7一三九八、短歌第四句3ゝ4) 入西妹者(入りにし妹は7一四〇九、短歌第四句3ゝ4) 成西物乎(なりしものを10一八三五、短歌第五句3ゝ4) 神備西(神びにし10一九二七、短歌第三句4ゝ5) 実尔成西乎(実になりにしを10一

九二九、短歌第二句5〜6) 吹西日徒(吹きにし日より10二〇八

三、短歌第二句3〜4) 忘西(忘れにし10二一八四、短歌第三句

4〜5) 開而落西(咲きて散りにし10二二八二、短歌第四句6〜

7) 積西(積もりにし10二三〇三、短歌第三句4〜5) 袖触西

夜(袖触れにし夜11二六二二、短歌第二句5〜6) 因西鬼乎(寄

りにしものを11二七八〇、短歌第五句3〜4) 割西智者(裂けに

し胸は12二八七八、短歌第四句3〜4) 可例西袖則(離れにし袖

を12二九二七、短歌第二句3〜4) 過西恋以(過ぎにし恋に12二

九二七、短歌第四句3〜4) 干西君之(離れにし君が12二九五五、

短歌第四句3〜4) 縁西物乎(寄りにしものを12二九八九、短歌第

第五句3〜4) 縁西鬼乎(寄りにしものを12二九八九、短歌第五

句3〜4) 留西(留まりにし12三一七九、短歌第一句4〜5)

留西(留まりにし13三三三三、短歌第三句4〜5) 思就西(思ひ

付きにし13三三四八、長歌七首句6〜7) 所言西我身(言はれに

し我が身13三三〇〇、長歌結句4〜5)

助動詞・連体形+付属語

雨毛落梗(雨も降らぬか4五二〇、短歌第二句6〜7) 年尔母有

梗(年にもあらぬか4五二五、短歌第五句7〜8) 国母有梗(国

もあらぬか4七二八、短歌第二句6〜7) 不晚毛荒梗(暮れずも

あらぬか10一八八二、短歌第五句7〜8) 伊行触梗(い行き触れ

ぬか10二三二〇、短歌第五句6〜7)

風毛吹額(風も吹かぬか7一二二三、短歌第四句6〜7) 因毛有

額(よしもあらぬか12三〇一一、短歌第四句6〜7)

(b) 一音節語+語頭

助動詞・連用形+付属語

西 隱西加婆(隠りにしかば2二二三、長歌七首句4〜5) 染西鹿齒

蚊(染みにしかばか11二六二四、短歌第四句3〜4) 余西鹿齒(余

りにしかば12二九四七短歌第二句4〜5)

梗 塞毛有梗毛(関もあらぬかも7一〇七七、短歌第五句6〜7)

(c) 語尾+一音節語

助動詞・終止形+付属語

霜 家恋良霜(家恋ふらしも3三六五、短歌第五句6〜7) 定異等霜

(定めけらしも6一〇五〇、長歌結句6〜7) 定異等霜(定めけ

らしも6一〇五一、短歌第五句6〜7) 磯廻為等霜(磯回すらし

も7一一六四、短歌第五句6〜7) 朝入為良霜(あさりすらしも

7一二一八、短歌第五句6〜7) 寐家良霜(寝ねにけらしも9一

六六四、短歌第五句6〜7) 船出為良霜(舟出すらしも9一七六

五、短歌第五句6〜7) 過去家良霜(過ぎにけらしも10一八八八、

旋頭歌第三句6〜7) 今夕相霜(今夜逢ふらしも10二〇二九、短

歌第五句7〜8) 今時来等霜(今し来らしも10二二三一、短歌第

五句6〜7) 不来跡為等霜(来じとすらしも10二二五一、短歌第

五句6〜7) 歎良霜(嘆かすらしも12三一四七、短歌第五句6〜

7) 相思羅霜(相思ふらしも13三三四三、長歌結句7〜8)

釣為良下(釣しすらしも3三五七、短歌第五句6〜7) 家思良下

(家思ふらしも7一一九一、短歌第五句7〜8) 家恋良下(家恋

ふらしも7一一九二、短歌第五句6〜7) 浪立良下(波立つらし

も7一二二八、短歌第五句6ゝ7) 忘来下(忘れけらしも7一二六二、短歌第五句6ゝ7) 春立下(春立つらしも10一八二二、短歌第五句6ゝ7) 今為下(今しすらしも) 10二〇六一、短歌第五句6ゝ7) 成来下(なりにけらしも10二二二七、短歌第四句6ゝ7) 置尔来下(置きにけらしも10二二七五、短歌第五句6ゝ7) 思来下(思ひけらしも11二六三七、短歌第五句6ゝ7)

(d) 語尾+語頭
該当例なし

(e) その他(一字三音節で二語にわたるもの)

助動詞・未然形+付属語

生なま 空消生(空に消なまし12二八九六、短歌第五句5ゝ7)

③ 第一語が活用しない自立語の場合

(i) 第二語が自立語であるもの

(a)・(b)・(d) 該当例なし

(c) 語尾+一音節語

染そめ 世染似裳(よそ目にも11二七一七、短歌第三句2ゝ3)

(ii) 第二語が付属語であるもの

(a)・(b)・(d) 該当例なし

(c) 語尾+一音節語

名詞+付属語

鴨かも 於久鴨不知(奥かも知らに13三三七二、長歌七音句3ゝ4)
肝きま 和豆肝之良受(わづきも知らず1五、長歌七音句3ゝ4)

粉こな 岸乃黄土粉(岸の黄土に6九三一、短歌第四句6ゝ7)

副詞+付属語

雲くも 己伎太雲(こきだくも2二三二、短歌第三句4ゝ5) 乏雲(ともしくも7一二二〇、短歌第三句4ゝ5) 若雲(けだしくも12二九二九、短歌第三句4ゝ5) 盖雲(けだしくも12三二〇五、短歌第三句4ゝ5) 幾許雲(ここだくも13三三二二、長歌五音句4ゝ5)

④ 第一語が活用しない付属語の場合

(i) 第二語が自立語であるもの

(a)・(c)・(d) 該当例なし

(b) 一音節語+語頭

半はん 僧半甘(僧は泣かむ16三八四六、短歌第五句4ゝ5)

(ii) 第二語が付属語であるもの

(a) 一音節語+一音節語

助詞+付属語

然しか 何然公(なにしか君が11二五〇〇、短歌第四句3ゝ4) 何然汝(なにしか汝の11二五〇三、短歌第四句3ゝ4)

鹿か 何時鹿跡(いつしかと4五一三、短歌第三句3ゝ4)

霜しも 其乎霜(そこをしも2二〇四、長歌五音句4ゝ5) 時者霜(時はしも3四六七、短歌第一句4ゝ5) 如是霜願跡(かくしもがもと6九二〇、長歌七音句3ゝ4) 国者霜(国はしも6一〇五〇、長歌五音句4ゝ5) 里者霜(里はしも6一〇五〇、長歌五音句4ゝ5) 故霜有如(故しもあるごと7一二七九、短歌第四句3ゝ4)

作日霜(昨日しも9一八〇七、長歌五音句4ゝ5) 市白霜(いちしろくしも10二三三九、短歌第四句6ゝ7) 市白霜(いちしろくしも10二三三九、短歌第四句6ゝ7) 名乎霜惜三(名をしも惜しみ11二七二三、短歌第二句3ゝ4) 衣霜(衣しも11二八二九、短歌第一句4ゝ5)

下見 見下吉(見まくしも良し10二二〇〇、短歌第五句4ゝ5) 百世下(百代しも11二六〇〇、短歌第一句4ゝ5) 千代下生(千代しも生きて11二六〇〇、短歌第二句3ゝ4)

友 生友奈重二(生けりともなし6九四六、長歌結句4ゝ5) 時友無雲(時ともなくも11二七〇四、短歌第四句3ゝ4) 生友名師(生けりともなし12二九八〇、短歌第五句4ゝ5)

西 神西座者(神にしませば2二〇五、短歌第二句3ゝ4) 酒西有良之(酒にしまるらし3三四〇、短歌第五句3ゝ4) 酒西有良之(酒にしまるらし3三四二、短歌第五句3ゝ4) 方西有良思(方にしまるらし4五七四、短歌第五句3ゝ4) 夢西所見(夢にし見ゆる4五九一、短歌第五句3ゝ4) 念西(思ひにし4六〇三、短歌第一句4ゝ5) 夢西所見(夢にし見ゆる4七一〇、短歌第五句3ゝ4) 事西在来(言にしありけり7一二三三、短歌第二句3ゝ4) 旅西在者(旅にしあれば7一二六一、短歌第二句3ゝ4) 事西在来(言にしありけり7一二二三、短歌第二句3ゝ4) 雲西裳在哉(雲にしあれば7一三六八、短歌第四句3ゝ4) 秋西安良祢波(秋にしあらねば8一二五五、短歌第五句3ゝ4) 夢西見乍(夢にし見つつ8一六二〇、短歌第四句3ゝ4) 今西応有(今にしあ

庭

るべし9一七四九、長歌結句3ゝ4) 花西有来(花にしありけり10二三八八、短歌第四句3ゝ4) 君西不有者(君にしあらねば10二二九〇、短歌第五句3ゝ4) 夢西所見(夢にし見ゆる11二五六九、短歌第五句3ゝ4) 恋西(恋ふるにし11二七五八、短歌第三句4ゝ5) 君西在来(君にしありけり11二八〇九、短歌第五句3ゝ4) 花西有者(花にしあらば11二八二七、短歌第二句3ゝ4) 夢尔夢西(夢に夢にし12二八九〇、短歌第四句6ゝ7) 念西(思ひにし12二九四七、短歌第一句4ゝ5) 夢西将見(夢にし見えむ12二九九五、短歌第五句3ゝ4) 夢西所見(夢にし見ゆる12三二六二、短歌第五句3ゝ4) 羈西居者(旅にし居れば12三二七六、短歌第二句3ゝ4) 物西不有者(ものにしあらねば13三三五八、長歌七音句3ゝ4) 妹西不有波(妹にし逢はねば13三三九七、長歌七音句3ゝ4) 山常庭(大和には1二、長歌五音句4ゝ5) 朝庭(朝には1三、長歌五音句4ゝ5) 夕庭(夕には1三、長歌五音句4ゝ5) 福路庭(袋には2一六〇、短歌第三句4ゝ5) 妹庭雖在(妹にはあれど2二二三、長歌七音句3ゝ4) 妹庭雖在(妹にはあれど2二二三、長歌七音句3ゝ4) 明日香庭(明日香には3二六八、短歌第三句4ゝ5) 朝庭(朝には3四八一、長歌五音句4ゝ5) 行事庭不有(わざにはあらず4四九八、短歌第二句3ゝ4) 如是有恋庭(かかる恋には4五六三、短歌第四句6ゝ7) 痛恋庭(痛き恋には4五七三、短歌第四句6ゝ7) 奥部庭(冲辺には6九四六、長歌五音句4ゝ5) 浦廻庭(浦回には6九四六、長歌五音句4ゝ5)

5) 目庭雖見(目には見れども7一三七二、短歌第四句2く3)
 時庭成奴(時にはなりぬ8一四四七、短歌第五句3く4) 山跡
 庭(大和には9一六七七、短歌第一句4く5) 其日左右庭(その
 日までは9一七五一、長歌七音句6く7) 春野庭(春野には10
 一八二五、短歌第三句4く5) 山跡庭(大和には10一九五六、短
 歌第一句4く5) 山辺庭(山辺には10二二四九、短歌第一句4く
 5) 色庭不出(色には出でじ10二二七四、短歌第四句3く4)
 穂庭開不出(穂には咲き出ぬ10二二七五、短歌第四句2く3) 穂
 庭開不出(穂には咲き出ぬ10二二八三、短歌第四句2く3) 穂庭
 不出(穂には出でず10二二八五、短歌第三句2く3) 穂庭開不出
 (穂には咲き出ぬ10二二二一、短歌第二句2く3) 隱庭(隠りに
 は11二七〇〇、短歌第三句4く5) 隱庭(隠りには11二七八四、
 短歌第一句3く4) 地庭不落(地には落ちじ12二八九六、短歌第
 四句3く4) 情庭(心には12二九三二、短歌第一句4く5) 宮
 庭有跡(宮にはあれど12三〇五八、短歌第二句3く4) 朝庭(朝に
 は13三三七四、長歌五音句4く5) 夕庭(夕には13三三七四、
 長歌五音句4く5) 卯管庭(現には13三三八〇、長歌五音句4く
 5) 現庭(現には13三三八一、長歌五音句4く5) 朝庭(朝に
 は13三三二九、長歌五音句4く5) 夕庭(夕には13三三二九、長
 歌五音句4く5) 若子蛟見庭(若子髪には16三七九一、長歌七音
 句6く7) 平生蛟見庭(平生髪には16三七九一、長歌七音句6く
 7) 童子蛟見庭(童髪には16三七九一、長歌七音句6く7) 子
 等何四千庭(児らが同年児には16三七九一、長歌七音句6く7)

穂庭莫出(穂にはな出でと16三八〇〇、短歌第二句2く3)
 墓墓(思へばか4五四〇、短歌第三句4く5)
 何時橋物(何時はしも13三三二九、長歌五音句3く4)
 手駕取而者(手をし取りてば7二二五九、短歌第四句2く3) 垣
 津幡鷺(かきつはたをし7一三四五、短歌第四句6く7)
 妹食序念(妹をしぞ思ふ12三三二九、短歌第五句3く4)
 接尾語十付属語
 志賀尔安良七国(志賀にあらなくに3二六三、短歌第五句7く8)
 家裏不有国(家もあらなくに3二六五、短歌第五句7く8) 孤
 悲尔不有国(恋にあらなくに3三三五、短歌第五句7く8) 君尔
 有名国(君ならなくに3四二二、短歌第五句6く7) 家待真国
 (家待たまくに3四二六、短歌第五句6く7) 吾莫七国(我がな
 けなくに4五〇六、短歌第五句6く7) 安莫国(安けなくに4五
 三四、長歌七音句六音句5く6) 妹尔不相国(妹に逢はなくに
 4五五八、短歌第五句7く8) 隔莫国(隔たらなくに4六〇一、
 短歌第四句6く7) 月毛不経国(月も経なくに4六四〇、短歌第
 五句6く7) 不有国(あらなくに4六六六、短歌第三句4く5)
 君尔不有国(君にあらなくに4六六八、短歌第五句7く8) 不
 遠国(遠からなくに4六七〇、短歌第五句6く7) 人尔有莫国(人
 にあらなくに4六八二、短歌第二句7く8) 隔莫国(隔たらなく
 に4六八九、短歌第二句6く7) 吾不念国(我が思はなくに4七
 一一、短歌第五句7く8) 吾行莫国(我が行かなくに4七二三、
 長歌七音句6く7) 吾念莫国(我が思はなくに4七七〇、短歌第

五句 7ゝ8) 念不堪国(思ひあへなくに 6九六二、短歌第五句 7ゝ8) 奈具佐米七国(慰めなくに 6九六三、長歌結句 6ゝ7) 過迹云莫国(過ぐといはなくに 6一〇二三、短歌第五句 7ゝ8) 濱有七国(浜ならなくに 6一〇六六、短歌第五句 6ゝ7) 名草目名国(慰めなくに 7一二二三、短歌第五句 6ゝ7) 吾念莫国(我が思はなくに 7一三七五、短歌第五句 7ゝ8) 人之見国(人の見まくに 7一三七九、短歌第五句 6ゝ7) 家母不有国(家もあらなくに 8一六三六、短歌第五句 7ゝ8) 恋布真国(恋しけまくに 9一七二二、短歌第五句 6ゝ7) 不知有名国(知らざらなくに 10一九一六、短歌第五句 6ゝ7) 恋尔有莫国(恋にあらなくに 10二〇二四、短歌第五句 7ゝ8) 吾之念勿国(我が思はなくに 10二〇八六、短歌第五句 7ゝ8) 零勿国(降らなくに 10二一九七、短歌第三句 4ゝ5) 清在莫国(清からなくに 10二一九八、短歌第五句 6ゝ7) 恋益良国(恋増さらなくに 10二二二八、短歌第五句 6ゝ7) 人云名国(人の言はなくに 11二三五五、旋頭歌第六句 7ゝ8) 未为国(いまだせなくに 11二三八八、短歌第五句 6ゝ7) 二八十一不在国(憎くあらなくに 11二五四二、短歌第五句 7ゝ8) 恶有名国(憎くあらなくに 11二五六二、短歌第五句 7ゝ8) 久家真国(久しけまくに 11二五七七、短歌第五句 6ゝ7) 常不在国(常ならなくに 11二五八五、短歌第五句 6ゝ7) 吾念莫国(我が思はなくに 11二八一九、短歌第五句 7ゝ8) 笠有莫国(笠ならなくに 11二八一九、短歌第五句 6ゝ7) 吾莫名国(我がなけなくに 11二八三五、短歌第五句 6ゝ7) 吾尔不有国(我にあらなくに 12二八八六、短歌第

五句 7ゝ8) 事毛有莫国(こともあらなくに 12二八八九、短歌第五句 7ゝ8) 吾念莫国(我が思はなくに 12二九一一、短歌第五句 7ゝ8) 吾不念国(我が思はなくに 12三〇四六、短歌第五句 7ゝ8) 吾思名国(我が思はなくに 12三〇五八、短歌第五句 7ゝ8) 遠有莫国(遠からなくに 12三一二四、短歌第二句 6ゝ7) 不安国(安けなくに 13三二九九、長歌七音句 六音 5ゝ6) 不安国(安けなくに 13三三三〇、長歌七音句 六音 5ゝ6) 不安国(安けなくに 13三三三〇、長歌七音句 六音 5ゝ6) 不安国(安けなくに 13三三三〇、長歌七音句 六音 5ゝ6) 吾念莫国(我が思はなくに 16三八〇七、短歌第五句 7ゝ8) 事尔不有君(ことにあらなくに 7一三八五、短歌第五句 7ゝ8) 雖見不飽君(見れど飽かなくに 9一七二二、短歌第五句 7ゝ8) 人毛不有君(人もあらなくに 10二二二二、短歌第五句 7ゝ8) 吾念名君(我が思はなくに 11二五二三、短歌第五句 7ゝ8) 吾不念君(我が思はなくに 11二七二七、短歌第五句 7ゝ8) 憎不有君(憎くあらなくに 11二七二九、短歌第五句 7ゝ8) 未厭君(いまだ飽かなくに 11二八〇七、短歌第五句 7ゝ8) 妻毛不在君(妻もあらなくに 12三一五六、短歌第五句 7ゝ8) 嶋檐名君(島ならなくに 12三二六六、短歌第五句 6ゝ7)

雲。 吉雲曾無寸(良けくもそなき 2二二〇、長歌七音句 3ゝ4) 好雲叙無(良けくもぞなき 2二二三、長歌七音句 3ゝ4) 有雲知之(あらくも著し 3二五八、短歌第二句 3ゝ4) 名惜雲(名の惜しけくも 4六一六、短歌第二句 6ゝ7) 言雲知久(言はくも著く 4六一

付記

テキストには増書房刊『萬葉集本文篇』を用い、語の認定には同『萬葉集訳文篇』を用いた。

(原稿受理一九八八年十二月二日)

九、長歌七音句 3ゝ4) 名之惜雲(名の惜しけくも4七三二、短歌第二句 6ゝ7) 見之善雲(見てし良けくも7一二二七、短歌第二句 6ゝ7) 惜雲奈師(惜しけくもなし9一七六九、短歌第五句 4ゝ5) 来之雲知師(来しくも著し10二〇七四、短歌第四句 3ゝ4) 冷雲梨(寒けくもなし11二五二〇、短歌第五句 4ゝ5) 安雲無(安けくもなき11二八〇六、短歌第五句 4ゝ5) 静雲(静けくも12三〇一〇、短歌第三句 4ゝ5) 惜雲無(惜しけくもなし12三〇四二、短歌第五句 4ゝ5) 惜雲無(惜しけくもなし12三〇八二、短歌第五句 4ゝ5) 惜雲梨(惜しけくもなし13三三五一、短歌第五句 4ゝ5)

(b) 一音節語 + 語頭

助詞 + 付属語

常 君乎見常衣(君を見とこそ11二五七五、短歌第二句 5ゝ6)

(c) 語尾 + 一音節語

接尾語語尾 + 付属語

国 所念国(思ほゆらくに3三七一、短歌第五句 6ゝ7) 我恋国(我が恋ふらくに12二八五〇、短歌第五句 6ゝ7) 所念良国(思ほゆらくに12三一九一、短歌第五句 6ゝ7)

君 所思君(思ほゆらくに10二二八四、短歌第五句 6ゝ7)

君 吾恋君(我が恋ふらくは12三一六八、短歌第五句 6ゝ7)

(d) 語尾 + 語頭

該当例なし